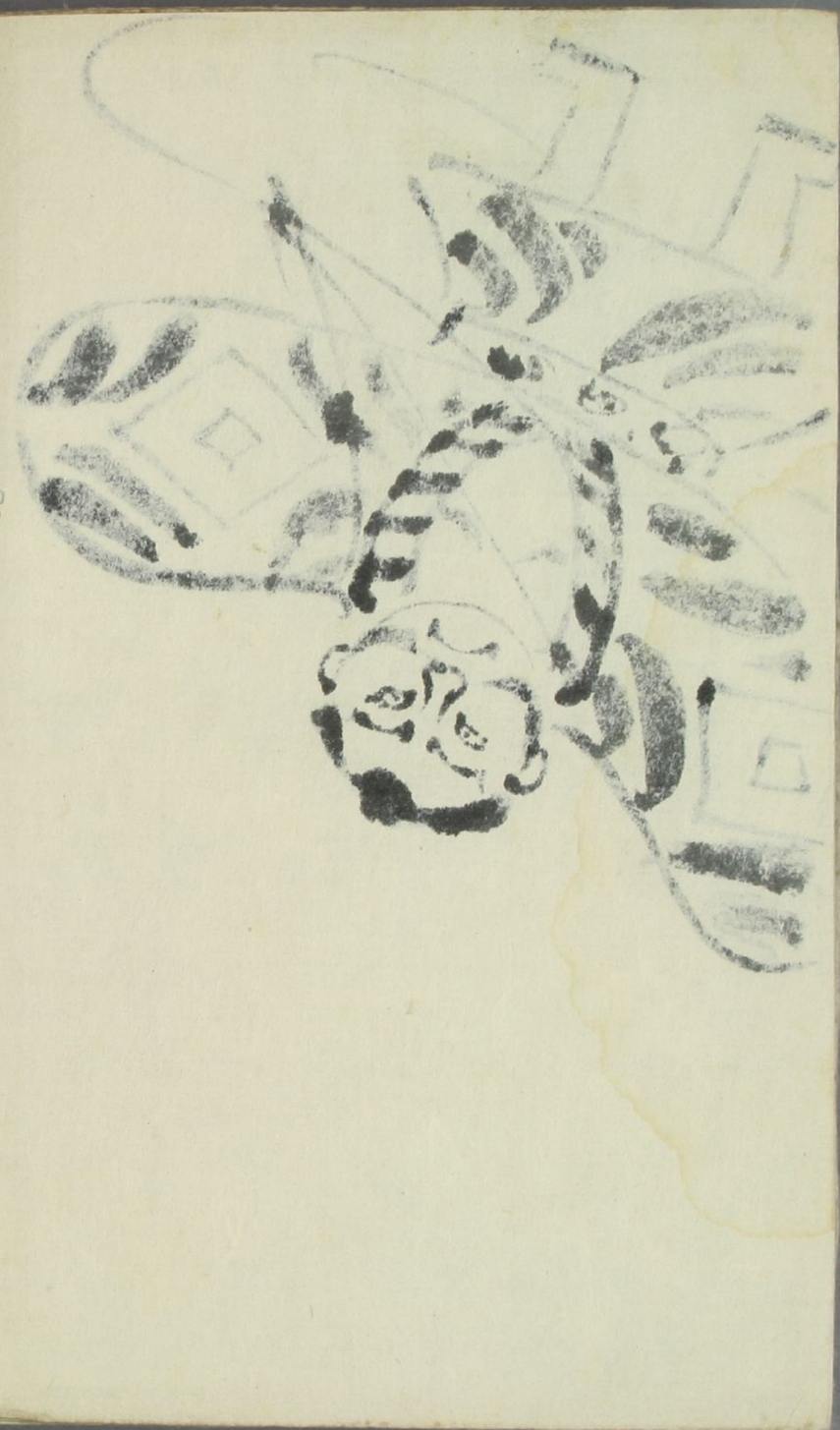
# 曙草帚

初刊四

へ13
3049
1

峰安

大晦日曙草紙
初編
上冊



へ13 特
3049

# 大晦日曙草紙

初編上冊

京山作
国貞画

蔦吉板

京水筆

山東主人が
大晦日の
新編を
頌せよ

寒隨一茶去
春逐五更来

一世界
このうくもとこそ
輕〳〵
除茶ばたこ市
六道葬亀成

天保九年戊戌晩春脱稿
初冬發販

大晦日
年玉
黄金百万 水東西
小判を羽根ろ
京山

第二十六のもの十六日


まゝ合のかゝうろうぶもあるまい六百もやようちのあ
そらうのあり

宗入
柳眼清春光

オ二ツとしまのうり物のまく

宗入ゲか店こうハ
おろかれ半七そ
ゑ一ハ三十四五酒油
あぐのこせかゑハ二十
四人のくんじ女房ハ
三ろうとていぜんハ三まゑの
糸ゑそりんちのハ世をこうろ
ばハーゆのあるこ六一の糸ゑ
名をばゑ一ゑ世ゑるゑるじが
半とも三ろうのハ
ゑれどさいろるる
るめのちいゑ一
ざーまもひろ
せそうとハ
おきーがまえの
女がそびゑう
ゑこの付
ひときと宗今
さーがゆてかん
ばろうこうをを
つけて史人を
ゆちさゑけるゑ
よろうるひゑう
ゆえのそどをまる
まゑにさこうハ

○まこと牛ゑ目ゑこれとも
たくゑんゑ本こげてゑゑ

ふく茶
ぶらう
外
あつね半七
つま三すの

火の用心

「京でんでるふのこれら
もいまとふようのこれざん
ねがいろまでもたべぬ

あるやや半七
女房

茶屋さろう
ゆかりのもの
ものしり宗入

京山作
國貞画

あやがのぎつじ
上のおちう

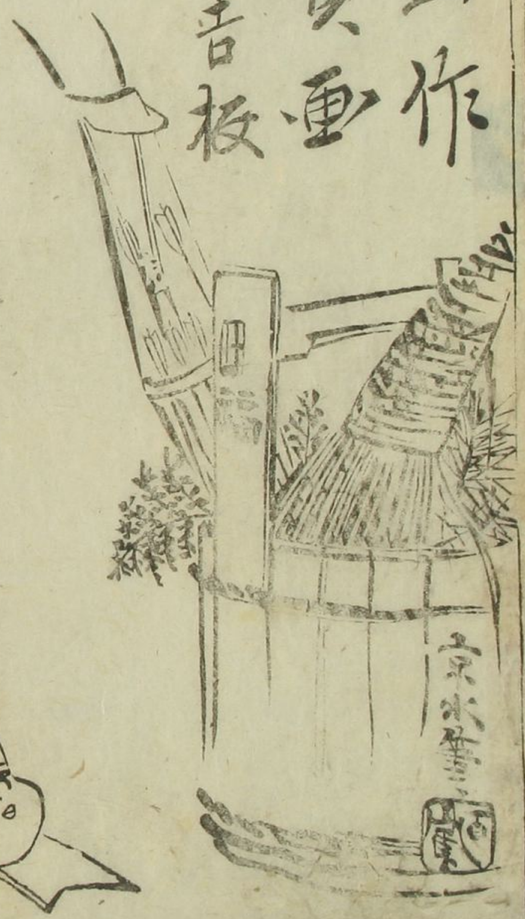
京山作
國貞画

ゆ兵下のまゑ

京山作
國貞画
蔦吉板

# 大晦日曙草紙

初編下之巻



福伝生

女房
娘

# 天保十己亥新版稗史類目録

合鏡蔦　柳亭種彦作
錦繪　全四冊　香蝶楼國貞画

大晦日曙草紙　山東庵京山作　初編　全八冊　香蝶楼國貞画

手綱染餘作春駒　墨春亭梅麿作　全六冊　香蝶楼國貞画

弘法流忠臣藏　墨川亭雪麿作　四十七字　香蝶楼國貞画

義艶仙女香　江戸中橋南傳馬町一丁目東側
黒油美女香　取次所　地本問屋　蔦屋吉藏版

敏達ヶ夜話　梅舎春島作　五雲亭貞秀画

犬塚縁起八藤士傳　亭万丸作　全四冊　五風亭貞虎画

其移香梅由兵篇　亭万丸作　全四冊　五風亭貞虎画

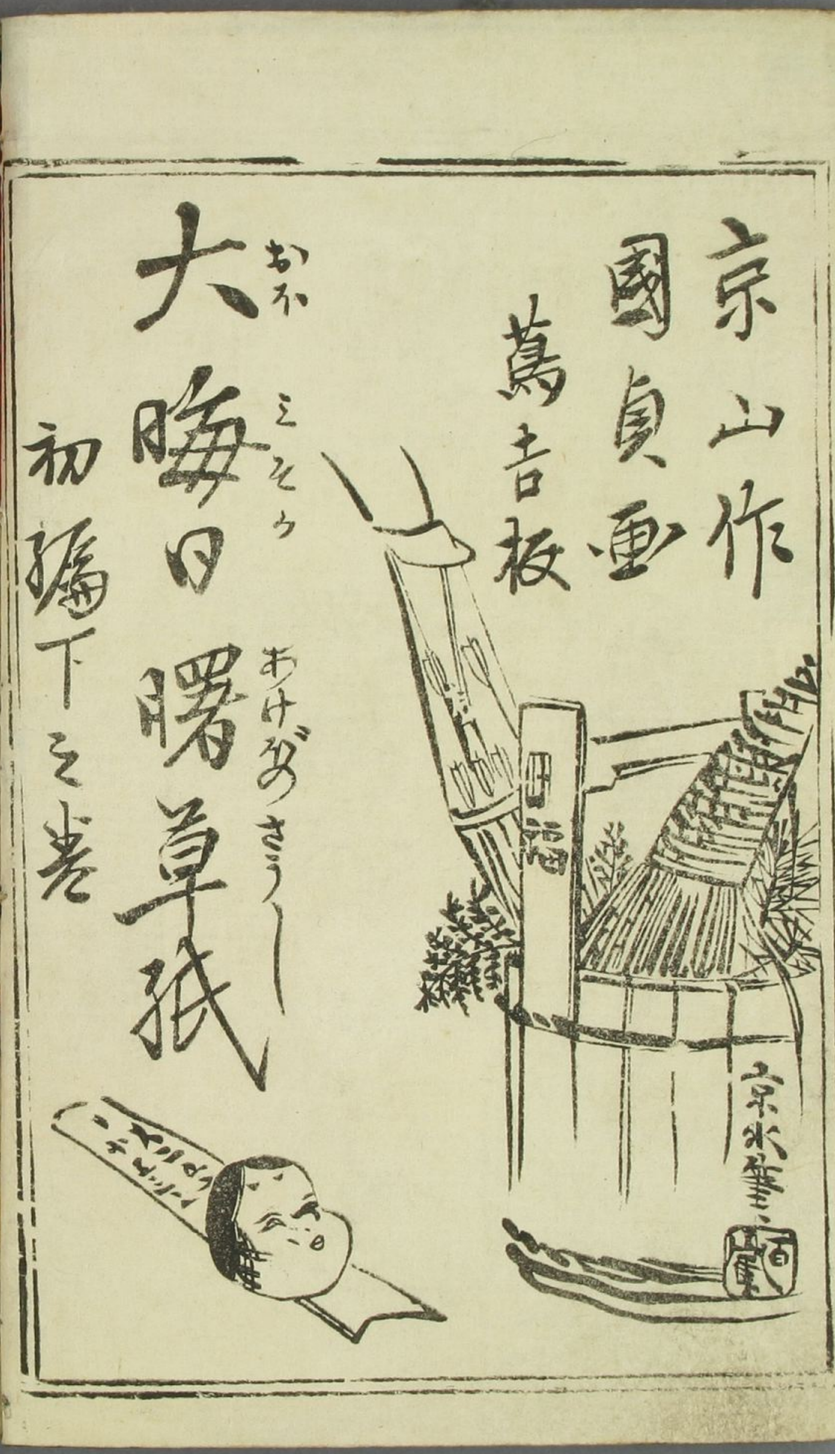
名仮宅比六歌仙　亭万丸作　全四冊　五雲亭貞秀画

# 京山作　國貞画

京山作
國貞画

京山作
國貞画
蔦吉板

大晦日曙草紙
初編下之巻



京山作
國貞画

# 大晦日曙草紙

二帖上冊

鶴吉板

## 大晦日曙草紙二編上卷

兼好ぶ法師

兼好ぶ法師草十九段の文ふ
つづりとめる目のうらうらとうらうらとふるまふ
ものもなく紙ぶすくふるまふ
人乃門ちらさちらうあり紙そ
ふふことをあらめらんとをぐ
のくらつてあ一紙そらに
ものふふあらつ紙ぶうう
さまとぶふふとあくありぬることを
ふらのるぶりもとるあ井けれ
此文をこれぶ兼好ぶ世ふ在一五百
年れむ一こゝあの大晦日も
かもとうのらけのりく
今の大晦日ふかとる古文ふ
松ともも一たとひ一も今ふ引ふり
てうちんの利口ふなり一二編目の大晦日
言ふらけくとすあられて判取帳のうらを返一
ひふうんりゆくよりなりつすをるいち長のおもをとゝ
なるるかかくくきはくれぶあゝらとそのくるかけを

山東庵京山

金屏
九十乃
霰や
米の豆
京れ

女房

定九郎

善助

おきさ
うべ

山東庵京山作
香蝶楼國貞画

京山作
國貞画

# 大晦日曙

芋虫

二編

下巻

京山作

国貞画

蔦吉板

浦
銀
長

合鏡　柳亭種彦作　香蝶楼国貞画

葛錦繪　全四冊

洗髪　曙川亭雪麿作　五風亭貞虎画

柳春雨　全六冊

大晦日曙草紙　三編　四編　全八冊　山東庵京山作　香蝶楼国貞画

十二段四季繪合編　初編　全四冊　春之屋梅麿作　香蝶楼国貞画

稲妻染女伊達次　全六冊　式亭小三馬作　香蝶楼国貞画

東風流當世花七心　全四冊　美図垣笑顔作　五風亭貞虎画

忠臣藏誓伊呂波　全四冊　墨川亭雪麿作　香蝶楼国貞画

春色眉玉柳　全四冊　式亭小三馬作　五風亭貞虎画

敵討　上三冊　曲亭馬琴作　香蝶楼国貞画

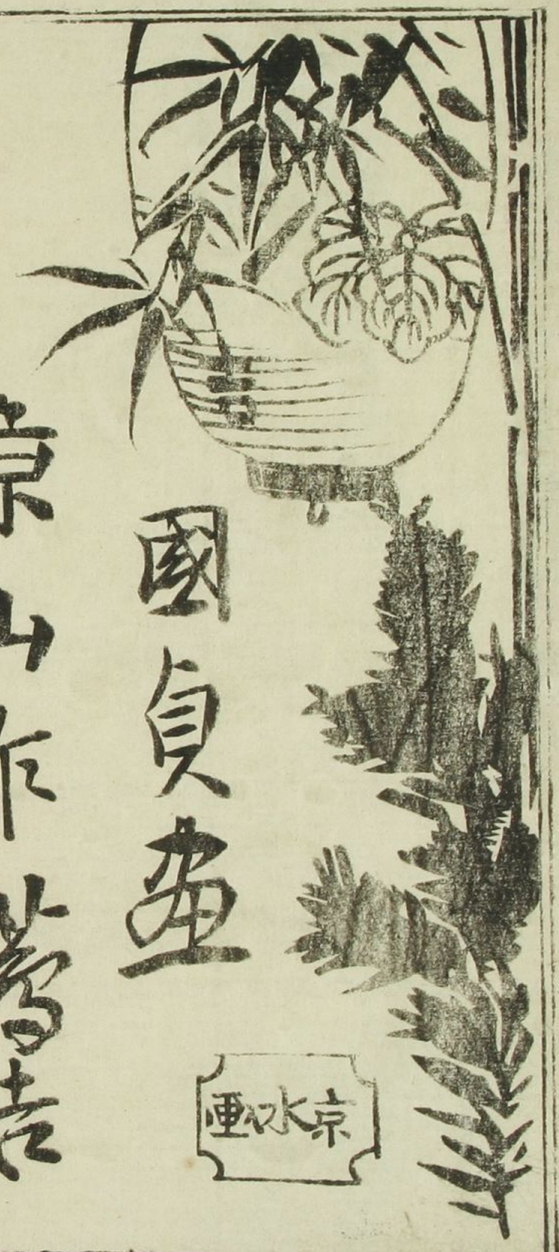
春色秋色香千種花園　全四冊　歌菊屋歌郎　五雲亭貞秀画

美艶仙女香　坂本氏製　江戸京橋南傳馬町一丁目　地本錦繪問屋葛屋吉藏板

黒油美玉香　一包四十八匁ヅヽ　呼

大晦日
曙草紙
三編上
京山作
國貞画
蔦吉板
天保
子春
新板

大晦日曙紙三編 下
京山作
國貞画
天保十二丑春



# 國貞畫

# 京山作 蔦吉板

# 大晦日三編下

京水仁堂



單老之至冊不周備君子之覽略繫

兒曹に充合餅耳とはさるなる唐さびたるまもの
たちまちつくもいつくもの平仮名言葉いろはの文字まつ徒る俳
諧の大晦日はのさまを初編二巻ん々あくらの神祈判
ちやり流福の車ゝ大晦日の客ぶをこそ捨のあく戒
つゞけて肯かう汲ぐた一服の福茶ゝ筆豆の今ゝる八ゝ
くの我ゝこゝ又やあるる吉瑞あん書賈折躍曰
いさゝかさゝうでゞ山椒 天保十年己亥孟春筆

閻月初冬上浣 蔦吉 主題

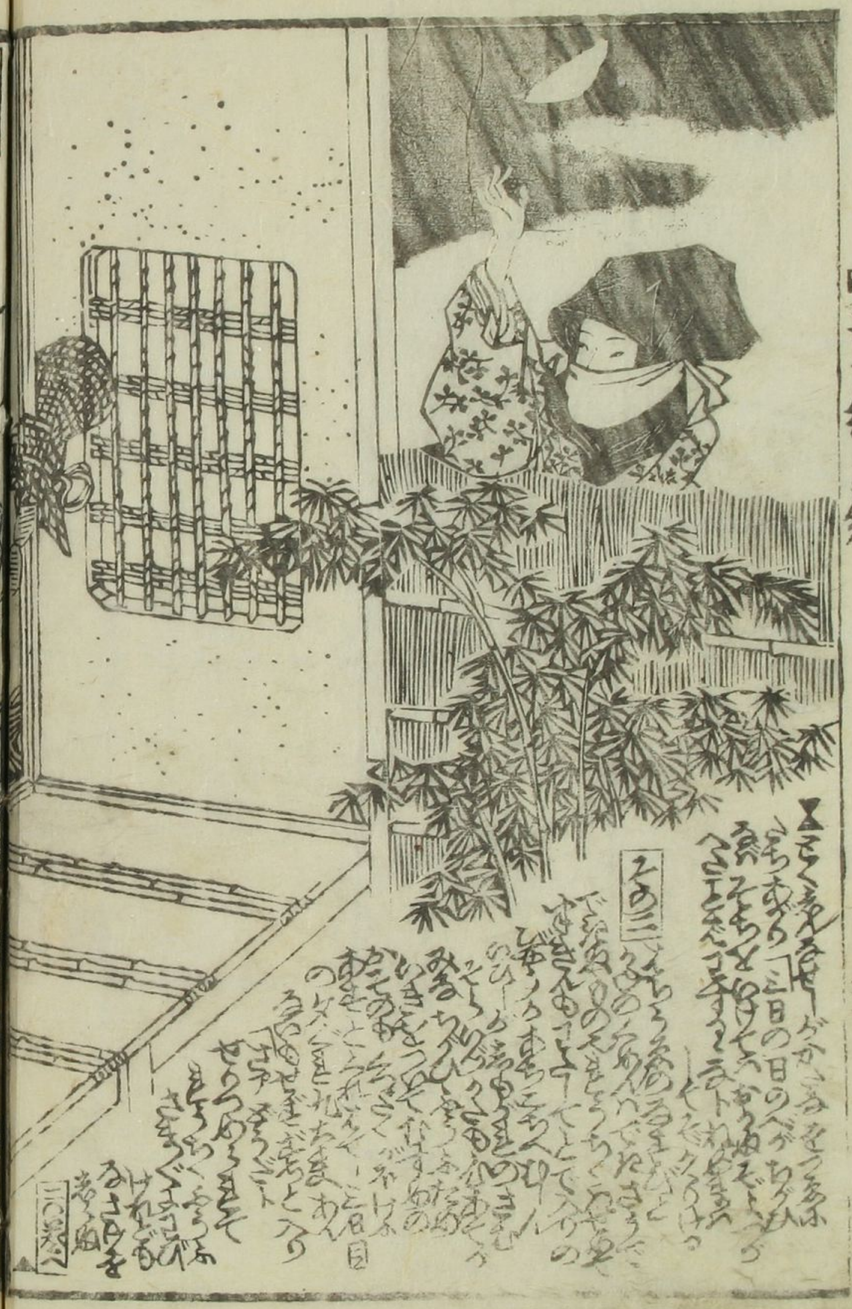
山東庵

大晦日
金比羅
ゆく
神楽ぶ
キ角
曙草紙三編
天川や
美平ゲ
一子
の仇
ふゝめ
かそのこ
だんなう
伊之八
曙草紙三編

大晦日
さくらん
とこの巻
第一 ことしもあと山の庵
ゆまつり弥八

第二 正月ちくぶ女房の竹
暁玉男竹

天竹
九ちまと
どん火一
ちくしん



第四そめいの月の景
そめ川
天川や

万六






その二
そあ川

京山作
國貞画

世ふ希ち血の乳の薬

# 婦人藥王 三養湯

紅麻袋入 かりん代 大包代 百三十文 小包代 百 五十文

●さんぜんたややはさんどあとまだらのの〇こゝふよ〜又ありものたろふやちさろろあやと
もべてありのものさくらきこまちふはもらとでとりてさあべべのやまひとなり
さんぜん用ひさろうあるとものまくくゝゝ又のちざんひろえさろるなどふさろ
そく用ひ●さんぜんどむくゝ●大小便はちじあ〜く●かこせろこ〜ひぎこをひきろる
たべひさまべくのそどやまひよろろ〜●くすいゆんのこびどふたちくせさなりノく
ひさろさんもる皮あり此藥五月きゆうり毎月用ゆまべ十月ゆえちりてあんざん
まろろのそこびひあ●こすいたのうちあちさこむさふたくうゝ又ハ到風ゆそれろのさ
あやこ使つうきはけるまさろふやろて功あり●くすいゆんのうちんふまろぬるひりく
ゆころくのものふたいろ〜氣ふさぎ使つうまろくふ用ひてそくさゆあるゝ●ぬんん
うろくのやまひまべて血ゝうり生ぎ使ろくくろもうまざろ婦人もエべくちのたこ
山藥ハ血液やくの〇胃をまとやふ氣力をまて婦人一切のびやうくまゝくれいやくふ
はべてさんぜんのちのこちちさんどのちのこちちのこちちのこちちのこちちのこ
藥名を三養湯とのハ●世上ふありふ用ひこゝゝ〜ものかこのこ神ば
もろゝふまこれやころこふ用ひこゝゝ〜ものかこのこ神ば

本家調合所 浅草本町二丁目 中ぐ 式亭三馬製

大時曽我物語
中編
紙三編

# 大晦日三編 下

京山作 芳春 板

國貞画

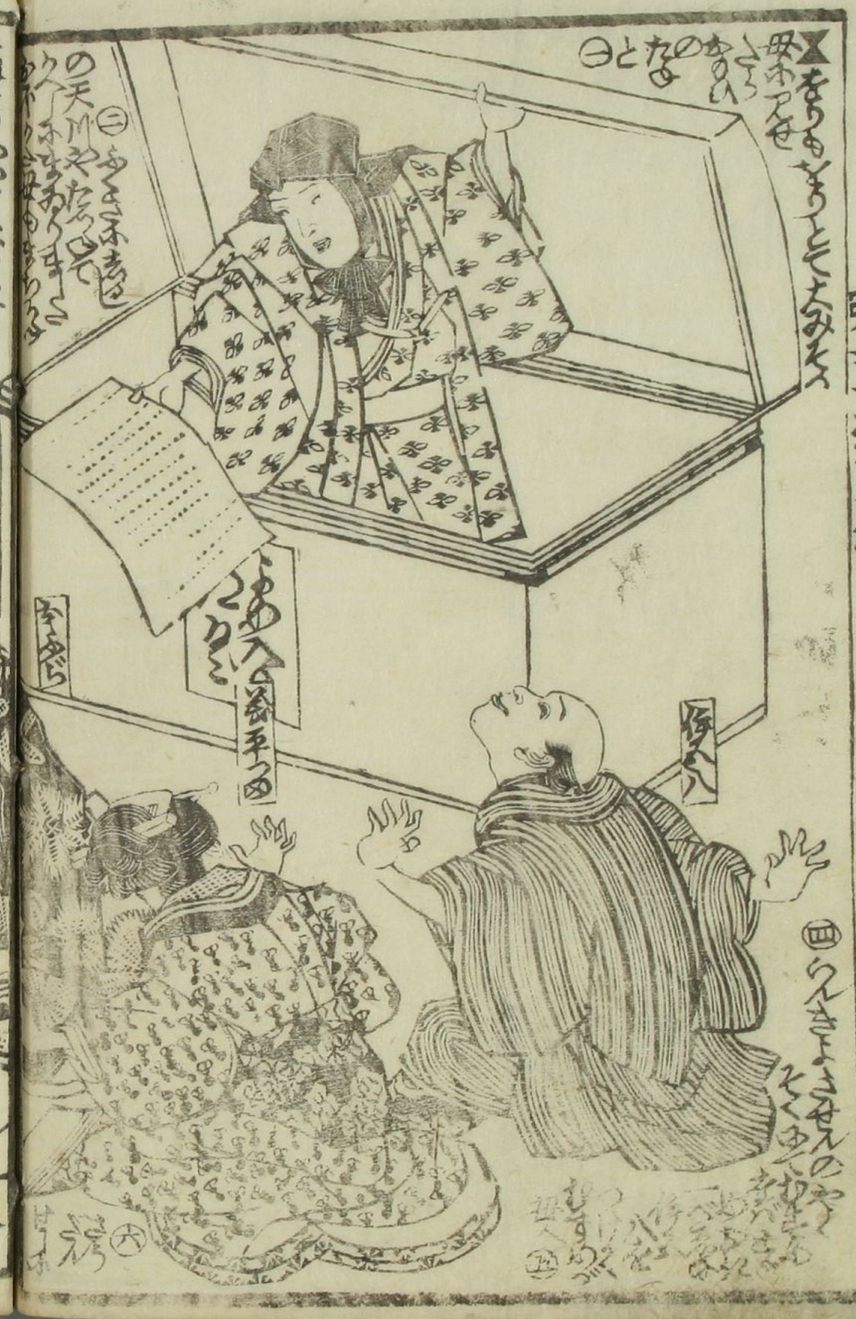
京水画

天川や長平

なぎち
義平つま


義平
伊太八

天川や
義平
お竹
かまぢ



第七刀やぎ七の段

女郎考
多唐脱
狂本朝
印章考
五冊近
刻倶京
山人作
宋幸書

合鏡　蔦屋錦繪　全四冊　香蝶楼国貞画

洗髪柳春雨　全六冊　五風亭貞虎画

大晦日曙草紙　三編　全八冊　香蝶楼国貞画

十二段四季繪合編　初編　全四冊　香蝶楼国貞画

稲妻染女伊達次女　全六冊　香蝶楼国貞画

東風流當世花誌　全四冊　九風亭貞虎画

忠臣藏碁伊呂波　七編　全四冊　香蝶楼国貞画

春色眉玉柳　全四冊　五風亭貞虎画

敵討　八丈　全六冊　香蝶楼国貞画

秋色香十種花園　全四冊　五雲亭貞秀画

江戸六橋南傳馬町一丁目
地本錦繪問屋　蔦屋吉藏板

# 大勝目覩草紙四編上冊

京山作

國貞畫

天保子新春

蔦吉板

大晦日婚礼四福
天保十一子夏
菊吉板
四ノ下
冊
京山作
國貞画

萬壽梓

京山作

東貞画

大咳百四編下

京山

峰文



此稗史已畧稿成而置敎言而筆耕倦
倦舍取託于二之一暇於書架繙之是則傳
人命瑛所著歷代咏物詩選也後至唐王理
除夜作卒然錄之以換叙言蓋此稗史以
集除夜之逸事哉雖然一笑詩曰
今歲今宵盡晴筆昨日催寒隨一夜去春逐
五更來氣色空中改容顏晴裏回風光人不
覺已入後園梅

天保巳夾榔月之望

山東庵京山

青楼除夜の図

小田原城
四きてみる
ぶんぶん家の蠅
其角

韻客小宴饌河漏

二八きそばやのそば

福の神
ひんなん神

酒やのかけとり

かたきあのあま

さいた抜け内





かたきあのあま

▼さゑさろだん内きものとぶーかさへのさゑ
ひきつけて「ヤアこざ臣沢かきよそろ
ゆもよーべ多ををふろけーれけえ内かろ
うちざかくこせとトかあとろ立あれば
あわもいのとものきれーこそらのやらで
あの月さでよろうよとアえれいさろ
やのてらーもいびっくろ出ろてんりけきろ
のさいそくも金あそのめのさと男を
れてあげでやくだん内あとをえんりて
がどにぞっくろそろよむろこ出れく
ごくらうくれらちのみもうえけんで
ふりびっくいものぬやーさへさめで
大あさろ「のやもせんせっろかさてのの
かろのをえそでしくのさもろひでそう
ひとろがのいもさしいのあ
ぬりゆこのさとさろをーさ
ならやくびをそのーどり
ろ見れが●だん内「ごうぶと
こそ考ろくとつめようそのも
ととをえん考ーめようを
まてヤアさろ臣めび
らへさいふをうとされが
かろさトさびろされが
かをつくられが
あけでられが
やりてあくさ
きりゆら

大日本四編


大日本四編

第二ときそばをまゐあげてゐる
(二)
(四)
(五)
(六)
(三)
(一)

おとや




源義

又人の人くるまもとまるで
さんとかのわるよれせんせのをこうて
ぐくのんさまべーかのうかへ牙まま
よこまいさんあよどうらうちふくとろ
へでもあげてこうらうちふくとろ竹べ
まーのとそなこまろかりさはかそ
牙子のきけんをこうはるこうひいろくくよ
せうもせをあそをせてかこうもうすのあやへ
くてふあろくえのわるもみ入れまる
けるさもうえのわるもみ入れまる
よるのめんてうれくあ泉さんと
まれかれさんをれてつるをさげ
られ牙まひとりさるまれ
まるもうーるどもふ
ゆるうひをそーゆると
おりつぎを子どもか
ようさうををーえ
らるーとうりべー
それわつけてもん
せーげかんぐちんん
てる竜ろ女
ぢうめあうさうぐ
ようるけれべ町
ろこのくらくらでる海ト
ぎるいけんちけれべ源義
ぎうふ牙ふてくてわりげくく
とれよりをでるを入れうまて牙ふを㊀

竹べ

京山作
國貞画





竹部源蔵



牙四源義が生涯だ

世をけうろ紅のうちことりをきこうつくるをうう
ざうるでもとそうとうそ山のうちふおりうう
ぢくうイでようられたうまも久しいめ
けあんぬあうとうなくとて
あけてこれいまつくのあうう
さるるうのやうるさをを
くるまこれもうくぎこうとめの
ぎうるれとべふ
がうのてをうけんをくを牙子
ゆうれをくを牙子のけてが
ちのうこうだのてそのあもつれて
きうう「これいうをくあちがさうを
みんうまをそれうこうあうこうれあけてさう
あもーやうさるトまうこれあけてさう
ふうこまをこれいれるんあもうるこ合
ぎうう源義がなをうこれうくふうる
ごらうこーしあめうらあふのうえる
これをこれいはんいうをうてあるう
なんつる竜のとあめんるうらう「ゆとく
あうるうる大うるふうるあいさものあと
おうこうぎーがかうげうる。女ならう
のちふこうらくてあけまをうトかてへ
ゆちうるうるうつけぎと合れぎ㊀

竹の源義
源義女房


ものしりの孝子
豆太郎

竹部門人
子ぞもの入りに
二ろう人
子おもで
ぞもろえ
ト女も
つるひうちでも
二ろう人
ぞどもおもてあそぶ
つぐれべんきょうのあそびもこ町やと
十さいやつ
ぜて人の目を
おどろかす
大海日四郎

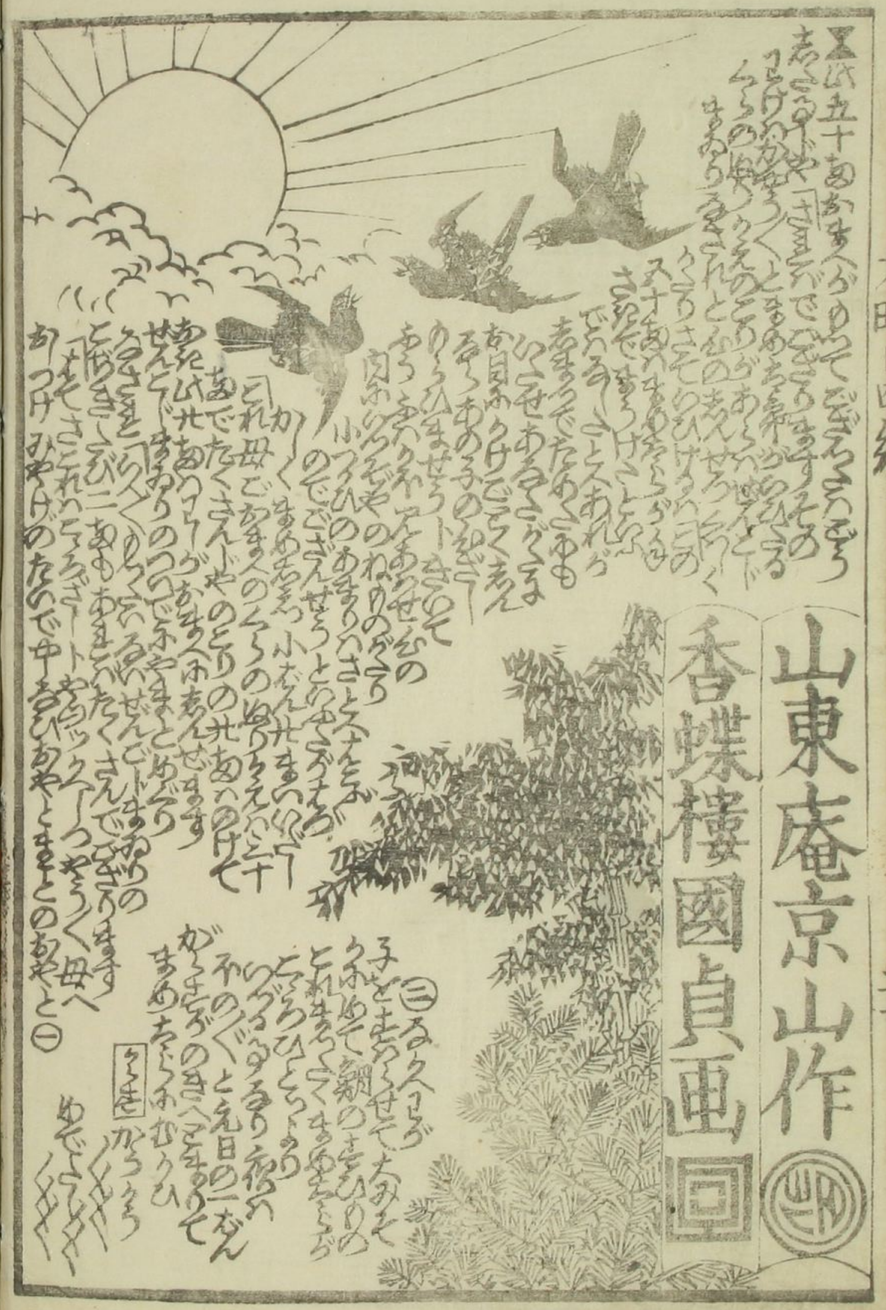
孝子豆太郎
下女

豆太郎
四の巻へ


四
おうの母

母
牛の太

孝子豆太郎
豆太郎の母
女房お外
豆屋



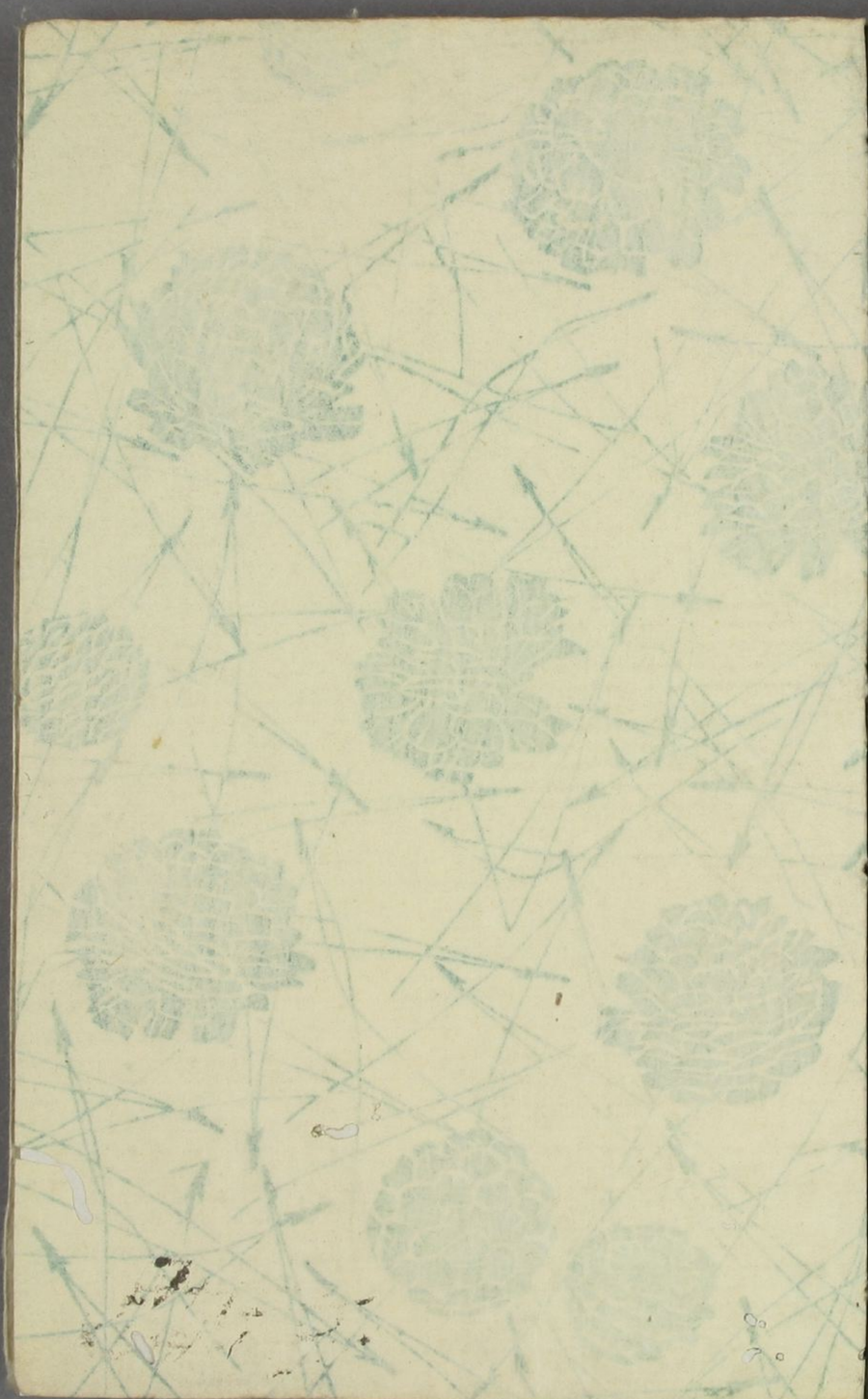


# 寂小便の大奇薬

一包代銭三百銅

此薬業はいろ深ど年久敷病悉く人人小便男女とも
ぬきの上白そ濁るの奇とやいえん姫とやいえん
佐人ども已刻る品一人も治せしといふなの薬一依くに佐人
のよくめ不滅を世に出むるの婦人の男女残水絶すて今
しむものをとなく世中に無業にしたがいもいろいり
なく長命無比の良方有難の仁とを世に知ひてこれ病苦をたすけ
の人へ

本家調合所　　江戸中橋廣小路町　北林堂　西宮弥兵衛



りうトロ
大西口略年代記
サヨカシ
八五